

羅針盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値目標		自己評価	外部アンケート等			
				I 特色ある学校作りを努めていますか。	1 特色ある教育活動を行っていますか。	<p>① 学校に対し、好きだと感じている生徒(学校生活が充実していると感じている生徒)が、85%以上である。</p> <p>② 3年間を見通した系統的・計画的な学習指導・進路指導により、第一志望校への合格率80%以上、国公立大学合格者数150名以上である。特に難関国公立大、医学部医学科合格者数が30名以上である。</p> <p>③ 部活動加入率が各学年90%以上で、この内80%以上が積極的な活動である。</p>	<p>○大規模伝統校としての良さを生徒同士も感じられる学校づくりを行うため、グランドデザイン等を共有しながらさらに統一した指導に努めていくとともに、スクールポリシーの検討を進めるなど3年間を見据えたカリキュラムデザインの構築を目指す。また、多様な価値観のある生徒がいることを職員間で共有し、より深い生徒理解を実践する。</p> <p>○ICTのより一層の活用等による主体的・本質的な学びを推進するとともに、【コラボレーション能力】を身につけさせるための授業展開や手法を職員全体で開発し、協働的な学びの機会を増やす。</p> <p>○学年、教科、企画・探究部、進路指導部の各部署が連携して、学校として統一をとりながら3年間を見通した進路指導体制を確立する。</p> <p>○学力向上や進路(キャリア)に関する意識が高められる内容を検討したうえで、各学年ともに適切な進路やキャリア教育的な行事を実施する。特に、面談や学年集会等を通じて高い志の維持や第一志望への強い拘りが持てるように、早期から系統的にきめ細やかな指導を実践する。</p> <p>○他校との情報交換や外部機関の研修会への参加を通して、進路実現に向けた授業改善と進路行事の精査・改善を推し進める。</p> <p>○部活動顧問と担任とが緊密に情報交換を行い、生徒の状況に合った活動ができるような環境作りを進める。</p> <p>○各部活動とも一段階上の目標を掲げるとともに、本校部活動指導方針に基づき、主体的・効率的な活動を促進し、生徒の【コラボレーション能力】・【失敗力】の育成とともに実績の向上を図る。</p> <p>○正副顧問の連携を図ることで、生徒の安全確保に努めるとともに、職員のワークライフバランスにも配慮する。</p>	B
II 生徒の意欲的な学習活動について適切な指導をしていますか。	2 生徒の実態に応じた指導を行っていますか。	<p>④ 授業に満足している生徒が85%以上である。</p> <p>⑤ 進路実現に向けて実施している、補習・課外授業に満足している生徒が80%以上である。</p> <p>⑥ 総合的な探究の時間を中心とした探究的な学習活動で、【プレゼンテーション能力】・【探究力】が身に付いたと自己評価する生徒が80%以上である。</p>	<p>○60分授業を有効活用するために、時間配分、ICTの活用等新たな課題に対して継続的に工夫・改善を図る。</p> <p>○新学習指導要領および本校生徒に身につけさせたい資質・能力を踏まえ、【探究力】・【メタ認知能力】・【プレゼンテーション能力】を育成するために、主体的で対話的な深い学びを意識した授業を推進し、生徒の目標に沿った進路実現に導く。</p> <p>○互見授業(年間3期間)や研究授業(各教科年間2回程度)を通じて、各教員の指導力と生徒理解力の向上を図る。</p> <p>○各教科・科目において習熟度別対策をできる範囲で実施する。</p> <p>○土曜課外について、回数の適正化や目標および目的の明確化によって生徒の学習意欲の向上を図るとともに、実施時期の適正化や実施内容の改善を推進する。特に、地歴・理科の実施や習熟度別課外の実施等、生徒の実態により即した内容となるように弾力的に活用する。</p> <p>○通常授業の充実を柱に、課外・補習の役割分担や位置づけを明確にし、それぞれの確に補完させながら生徒全体の学力向上を図る。</p> <p>○課外・補習の実施状況や実施内容を定期的に検証し、生徒の満足度を高める。</p> <p>○企画・探究部を中心に進路指導部や学年と連携を密にし、計画的・系統的な学習活動を実施する。特に1学年では、自校内における講演会やセミナー、企業研究所訪問研修などの外部機関への訪問を通して興味関心を広げながら、個人探究のテーマである「21世紀の担い手として創造したい社会」を見い出す教育活動を実践していく。2学年では、1年次に設定した「創造したい社会」を実現するために、フィールドワークや実験・研究活動が計画的に実施できるようにし、創造したい社会と現実の社会の差を埋める探究活動を実施する。</p> <p>○外部機関への訪問後など、生徒が主体的に発表する機会を多く実施する。</p> <p>○2学年は個人探究の成果として、全生徒1つ以上コンテストに応募する。</p> <p>○「総合的な探究の時間」の内容について保護者理解を深めるために、Webページへの掲載等を通じて学校からの発信を推進する。</p>	B	B	B	<p>○これまでは、授業内容に「満足」と答えている生徒が各学年ともに9割以上であったが、今年度は2年生が84.5%、3年生が88.0%であり、全体では88.7%であった。僅かではあるが、2年生は目標の85%を下回ってしまった。今後も満足度を維持、向上できるように授業改善に努める。</p> <p>○グランドデザインに基づいた学校運営を進めるとともに、グランドデザインのブラッシュアップを図り、生徒・保護者・地域が満足できる学校像を構築していく。</p> <p>○習熟度授業は主に3年生に対して実施しているが、数学・英語等の習熟度授業に満足している生徒が86%と高い数値を示している。より良い方策になるよう修正しながら習熟度授業を継続して行くことが望ましいと考えられる。</p> <p>○補習・課外授業に対する満足度は、3年生は85.6%で良好であるが、1・2年生の土曜課外に対する満足度が低く(それぞれ71%、58%)、両学年ともに目標を下回っている状況である。1・2年生の土曜課外に関しては改善の余地があり、課外ごとに目的を明示し、意欲的に取り組めるものとするよう工夫していきたい。</p> <p>○授業第一主義のもと、ICTの活用などにより授業改善を推進させる。また授業を補完する為の課外や補習、課題等を適切に調整し、文武両道のバランスの取れた生徒の育成に尽力する。</p> <p>○土曜課外については、部活動の引率などで指導教諭の数が不足するため大教室で実施することが多くなってしまった。このことが生徒の満足度を下げる要因になっていると考えられる。模擬試験の対策として実施することは一定の評価を得ているので、実施方法、時期のバランスを調整して次年度は実施したい。</p> <p>○「総合的な探究の時間」を中心とした探究的な学習活動で「探究力」「プレゼンテーション能力」が身につけていると答えた生徒が1年生では92.7%、2年生では82.3%であった。1・2年生とも目標を達成することができた。</p> <p>○発表活動においては、1・2年生とも3回実施した。太田女子高校との合同発表会に加えて、2年生の個人探究最終発表会ではポスターセッション形式を新たに導入した。今後も更にブラッシュアップをしていく。</p> <p>○2年生全員が個人探究の成果としてマイプロジェクトアワードに応募した。コンテストへの応募を促進させ進路実現にも繋げていきたい。</p> <p>○「総合的な探究の時間」を中心とした探究的な学習活動で「探究力」「プレゼンテーション能力」が身につけていると答えた保護者は約60%である一方、わからないと答えた保護者が27%であった。引き続きWebページへの掲載等を通じて学校からの発信を行っていく。</p> <p>○探究活動における主体的に探究する活動が、自主的に自分の進路を考え、学習に向かう姿勢を養うことにつながっている。その成果が、各学年の模擬試験の結果にあらわれている。</p>	<p>○保護者として、探究活動について細かく指導してもらっただけでなく、活動を通じて社会や世代を超えた人たちと交流や関係を持ったことがとてもありがたい。学習活動だけでなく、様々な活動を再認識できた。ぜひ、新聞や地域の回覧板も活用して、学校の取組や活動を周囲にもっと発信した方が良い。</p> <p>○授業の様子を見ても、生徒全員が前を向いて教員の言うことに集中していた姿が印象的でとても良い。</p> <p>○授業や進路の取組がコースごとに綿密に計画されていて、安心して任せられると感じた。現在も学校は信頼できる教育活動を行っていると感じる。</p>
	3 生徒は確かな学力を身に付けていますか。	<p>⑦ 学習に対する達成感・満足感を持っている生徒が70%以上である。</p> <p>⑧ 学習内容の定着等のために、家庭での1日当たりの平均学習時間は3時間以上である。</p>	<p>○学年を中心に教科担任・クラス担任との連携に基づいた二者面談等を通じて生徒の状況を把握したうえで、学習法や目標設定など生徒への適切な支援を行う。</p> <p>○学習に対する達成感を高めるために、各テストの目的・意義の明確化や記述・論述問題を適切に取り入れた作問の工夫を図る。</p> <p>○客観的な指標として模擬試験結果の分析を通じて中期的な育成課題を洗い出し、学習におけるポイント(学習方法や科目バランス)を明確にする。</p> <p>○個に応じた学習指導を展開するために、生徒の状況に応じた小グループでの指導や添削の学年横断的な取組を継続し、個々の教員の指導力向上を図り、生徒に還元する。</p> <p>○予習・授業・復習の学習サイクルが習慣化され、【基礎的な知識・技能】が身につく、生徒が自主的に家庭学習に取り組めるよう、授業改善をさらに推進する。</p> <p>○主体的な学習者になるように、学年、教科が連携し課題の量や内容が生徒の実態にあうように改善を図る。習熟度によって課題の内容を分けることも検討する。また授業との関連や生徒の学習意欲の喚起にも留意し計画的に課題を課す。</p> <p>○生徒の進路意識を高めるため、進路講演会等の進路行事の改善や充実を図る。特に、【メタ認知能力】を育成するために、外部講師の活用と校内教職員による指導を適切に活用する。</p> <p>○学習時間調査を定期的実施して学習時間を定点観測することで、生徒の学習状況を把握する。また、二者面談などを通じて適切なフィードバックを与えることで、生徒の学習意欲向上の支援を行う。</p>	A	A	A	<p>○「二者面談によって現状理解や進路についての展望が深まったか」の問いに対して、3年生94%、2年生95%、1年生94%が深まったと回答しており、十分に担任と生徒が進路に対する情報共有ができていることがうかがえる。継続的に二者面談を通じて生徒の成長を促していきたい。</p> <p>○「授業→定期考査・学力テスト→復習」を1つの学習サイクルとして回すことで生徒の学びを支援する形ができつつある。試験後に出題者が作成した解答解説を用いて生徒に試験のふりかえりを促す指導が継続的に行われており、生徒の知識定着に高い効果があると同時に、出題者側である教師の作問力の向上が図られている。</p> <p>○各学年において、難関大セミナー、医学部医学科セミナーへの参加者を募り、3年間を見通して継続的な指導が行われている。進路関係のデータを用いたり、添削指導を行うことで、高い目標を掲げる生徒のモチベーションの維持に役立っている。</p> <p>○「予習・授業・復習の学習サイクルが確立している」と回答した生徒は、3年生79%、2年生81%、1年生86%と高い数値を示している。低学年時からしっかりと学習習慣が確立されている。</p> <p>○「平日の平均家庭学習時間が3時間以上の生徒」は3年生80%だが、受験生としてはまだまだ不十分とも言える。2年生は22%、1年生は30%であるが、文武両道を実践し部活動や各自の活動を行っている生徒も多いため悪い結果とは言えない。スキマ時間などを有効活用するなどの指導が必要と感じる。</p> <p>○保護者会、模擬試験の振り返りなどを外部から講師を招いて実施することで、生徒、保護者、教師ともに最新の情報を共有することができている。進路講演や振り返りの内容をブラッシュアップしながら継続的に活動したい。</p> <p>○長期休業明け、定期考査前などを中心に継続的な学習時間調査を行い、二者面談などで生徒へフィードバックしている。定期考査、学力テスト、模擬試験の結果と学習時間の相関を確認しながら、より効果的に指導できるよう工夫していきたい。</p>	

羅針盤			方 策	点検・評価		達成度	達成状況のまとめ及び次年度の課題	学校関係者評価
評価対象	評価項目	具体的数値目標		自己評価	外部アンケート等			
Ⅲ 生徒の充実した学校生活について適切な指導をしていますか	4 組織的・継続的な指導を行っていますか。	⑨ 「学校は、いじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っている」と認識している生徒が80%以上である。	○生徒会活動や学級活動を通じて生徒の【メタ認知能力】を育成し、生徒主体のいじめ防止活動を実施する。 ○いじめ防止や早期発見のためには保護者との連携が重要であるため、いじめ防止に対する学校の取り組みを、Webページに積極的に掲載する。 ○「いじめ防止等の取組状況調査(生徒・保護者)」を通じて、本校の取組を検証する。	A	B	B	○本校のいじめの未然防止や早期発見とその解消に向けた取組について生徒の85.2%、保護者の61.5%が肯定的な意見であった。およそ11%の保護者からは否定的な意見をいただいている。今後も保護者会や学校ホームページ等を活用し周知に努めるとともに、引き続き粘り強く理解を求めていく。	○文化祭など文化的行事だけでなく、煌斌祭のような体育的行事についても保護者等への公開を望む。 ○地元地域として生徒の登校状況を見ていると、多くの生徒が同時刻に通学しているにもかかわらず交通事故が起こらないのは、生徒の交通への意識の高さが現れていると感じる。
		⑩ 職員会議や学年会議において、生徒に関する情報交換を月に2回程度行っている。また、生徒アンケートや学年分掌の情報交換を通して、いじめの発生防止と発見に努め、いじめの解消100%をめざす。	○適切な指導を行う前提として生徒に関する必要十分な情報を共有するため、月2回以上の学年会議と相談係会議を設定する。また、つまづきや不登校の予防的指導を重視し、定例会議だけでなく日頃から教職員間の連携に努める。 ○「いじめはどこでも存在する」という共通認識のもと、生徒アンケートや学年・分掌の情報交換を通し、いじめの未然防止に努め、発見しだい迅速かつ適切に対応して、いじめの根絶を図る。	A	B	B	○毎回の運営委員会と毎回の職員会議の全18回(12月末現在)で綿密に生徒の情報交換・情報共有を行った。問題を抱える生徒に対して個別の指導計画の立案を含めて指導していく。 ○現在(12月末現在)までのいじめ認知件数は1件である。引き続きいじめのアンケート調査に加えて、日常的な観察・面談等を通して、いじめの未然防止・早期発見・早期対応に努めていく。	○他校と比較すると、ヘルメット着用率が低いため、生徒に着用の意義について理解させて着用率を上げていってほしい。
		⑪ 生徒会行事に満足感・達成感を持っている生徒が70%以上である。	○行事の企画や運営などにおいて、生徒の【コオペレーション能力】・【探究力】育成のため、生徒が主体的に取り組むことができるように、良識の範囲内で生徒に裁量権を与えて活動させる。 ○2回目の実施となる煌斌祭に向けて、生徒の主体的な活動をサポートしながらも、的確な指示を適切なタイミングで行うことを心掛け、充実感に満ちた行事にする。	A	A	A	○生徒会行事については、体育祭(煌斌祭)・球技大会を実施するとともに、事後アンケートでは生徒の90%以上が積極的に参加したと回答した。今後も生徒が主体的に活動できるように支援していく。 ○学校行事も本格的に再開してきたが、引き続き新型コロナウイルスの感染症対策を含めて早めの準備を心掛ける。また、生徒一人ひとりがさらに主体的に取り組めるように留意する。	○遅刻0%や交通事故0%という目標設定は大切であるため、今後もこの目標値を目指して取り組みを継続してもらいたい。
5 生徒は健康で、規則正しい学校生活を送っていますか。	⑬ 家庭と連携をとりながら、(正当な理由でない)遅刻を0%にする。	⑫ 職員・生徒・保護者間のコミュニケーションを密にする取り組みを行うとともに、学校生活に積極的に取り組んでいる生徒が80%以上である。	○各学期ごとの二者面談や三者面談の「ねらい」を明確化し、面談の成果をあげる。 ○保護者の視点に立った情報発信を行い、三者間の連携を密にする取組(三者面談、学年保護者会、保護者アンケートなど)を有効に活用して、相互信頼関係を構築し、透明性と安心感のある学校づくりを進める。	A	A	A	○生徒については、3年生94.3%、2年生94.8%、1年生93.6%が三者面談で理解が深まったと回答している。教師と保護者が直接コミュニケーションがとれた三者面談は大変に貴重な機会となった。日頃から情報の送受信を積極的に行い保護者、地域との連携を深めていく。 ○学校生活全般に積極的に取り組んでいると感じる保護者が73.0%であった。学校行事も再開され、来年度の「太高祭」等に向け生徒が主体的に企画・運営を行い有意義なものとなるよう対策をしていく。 ○「学年通信や『進路ジャーナル』は保護者が知りたい情報を伝えていきますか」の問いに対して、伝えていると回答した3年生保護者は84%、1・2年生保護者は83%である。まだまだ、改善の余地はあるものの一定の評価を得ることができた。更に、保護者のニーズに応えられるような情報発信を行いたい。	○生徒達は、誰に対してもよく挨拶するし、マナーもとても良いと感じるため、現在の学校環境を継続してほしい。
		⑭ 学校はいじめの防止や早期発見に向けた取組を積極的に行っていますか。	○基本的な生活習慣の確立は充実した学校生活の基盤であることを、生徒が様々な場面において自覚できる機会を設け、【メタ認知能力】の育成とともに自己管理能力を高める。 ○「家庭は安心して生徒を送り出す、学校は責任を持って生徒を迎える」という関係性に基づいて、学校と保護者の信頼関係を構築する。 ○交通安全指導・登校時指導を通しゆとり登校を心掛けさせ、生徒の生活習慣の確立を促す。 ○「保健だより」を定期的に発行し、感染症などの予防や、生徒の体調管理に役立つようにする。	B	B	B	○2学期の遅刻は1学期(合計294 1日平均4.2人)に比べ増加傾向(合計904 1日平均11.1人)、昨年度(11.0人)よりも若干ではあるが増加し、一昨年(1日平均5.5人)よりも大幅に増加している。アンケートから規則正しい高校生活を送っているという生徒の割合は83%である。 ○95.8%の生徒が安全な登校を心がけているという結果を得たが、交通ルール・マナー等において依然として改善すべきところが多い。集会等を通して交通事故を未然に防ぐ観点からも安全な登下校を心がけるよう、保護者とともに指導していく。 ○「保健だより」などにより情報を提供し、健康・安全について生徒の意識を高め、心身ともに健やかで充実した高校生活が送れるよう支援していく。	
		⑮ いじめと真剣に向き合い、常にいじめを許さない気持ちと態度で臨んでいる生徒が90%以上である。	○年間2回実施している「いじめ防止強化月間」で、のぼり旗等を利用した活動を通して、学校全体でいじめに対峙していく集団を形成し、【コオペレーション能力】の育成をめざす。 ○「スマホ利用ルール」を周知し生徒・保護者を交えて再認識することで、SNSを介したいじめの未然防止に努める。 ○「挨拶運動」を年間3回・6日間実施し、円滑な人間関係の醸成を図る。	A	B	A	○いじめ防止フォーラムの成果ポスターやいじめ防止強化月間・あいさつ運動等を通して、いじめ防止に対する意識向上を図れた。 ○96.1%の生徒がいじめに真剣に向き合う態度を持っている。若干名の保護者からは学校のいじめ対策がなされていないとの回答をいただいたが、学校側の周知努力は昨年度より功を奏している。生徒間のトラブルは複雑で表面化しない問題もあるため、生徒の生活に目を配り、変化を見逃さないよう職員間で情報共有をしていく。	
Ⅳ 生徒の主体的な進路選択について適切な指導をしていますか。	7 計画的な指導を行っていますか。	⑯ 学校から提供される進路情報が役立つと評価する生徒が70%以上である。	○進路指導室や資料室を生徒が利用しやすいように整備し、必要な情報をタイムリーに得られるよう工夫する。 ○生徒及び保護者に対して進路情報を適切に提供できるように努める。特に保護者会や三者面談の機会では情報を精査したうえで資料を準備する。 ○情報発信も、紙媒体、デジタル媒体(一斉メール、Classroom、Webページ)を場面や状況に応じて使い分ける。 ○学習法等についても、進路指導部が各学年等を通じて生徒に提供できる情報をより整備する。	B	A	A	○進路資料室の整備は進んでおり、生徒たちも赤本の利用を積極的に行っている様子が見える。資料の整理に関しては、まだ改善の余地があると認識している。棚の設置も含めて検討していきたい。 ○「生徒が主体的に進路を選択できるように進路情報が提供されていると思いますか」の問いに対して、「されている」と回答した3年生保護者は77%、1・2年生保護者は84%である。改善の余地はあるものの一定の評価を得ているといえる。情報発信の方法・内容を改良しながら引き続き、保護者との情報共有に努めていきたい。 ○「学校からの進路情報は、進路を考える際の役に立っていますか」の問いに対して、「役立つ」と回答した3年生84%、2年生91%、1年生96%となった。日頃の各学年からの情報発信が的確に行われていることがうかがえる。	○東京大学理科三類を始め、難関大学を目指す生徒が多くいることに大きな期待が持てる。ぜひ、生徒だけでなく学校としても挑戦して欲しい。
		8 生徒は自らの進路について真剣に考え、その実現に向けて取り組んでいますか。	○探究活動の計画的な指導を充実させることで、進路指導・キャリア教育と連携した活動となるように整備する。特に、生徒の発達段階に合わせて自らの将来を見通せるように【メタ認知能力】の育成をめざす。 ○自身の進路(キャリア)と高校生活が密接に関連していることを認識させ、学習や部活動などの場面で動機づける。 ○インターンシップ(社会への試行的参加活動)への積極的な参加を推進する。	A	A	A	○企画・探究部長が進路指導部の会議に参加するとともに、進路指導主事も企画・探究部の会議に参加することで連携を深め、探究活動と進路指導の一体化を図っている。 ○「自らの進路について考え、その実現に向けて日々の生活に取り組んでいますか」の問いに対して、「取り組んでいる」と回答した3年生は94%、2年生は85%である。探究活動において主体的に活動する姿勢が、進路を考える日々の活動につながっているといえる。 ○1年生では企業研究所訪問研修、2学年ではフィールドワークを実施することで積極的に社会との接点を持っている。	
Ⅴ 開かれた学校づくりに努めていますか。	9 家庭、地域社会に積極的に情報発信をしていますか。	⑰ 学校からの情報発信に満足していると評価する保護者が70%以上である。	○一斉メールやWebページを活用したタイムリーな情報発信は保護者から高い評価を得ているため、この体制を継続する。 ○見やすく、わかりやすいWebページの作成を心がけるとともに、各分掌との連携を深めることでタイムリーな情報発信を行う。	A	A	A	○本校のWebページおよび情報発信に関しては、85%近くの保護者が満足しているとアンケートに答えている。次年度も、各分掌との連携を深めることでタイムリーな情報発信に務めていく。	○地域では少子高齢化が進んでおり、つながりを大切にするため助け合いの場を設けている。様々な活動を通して、お互いに声の掛け合いを行って安心できる街づくりにつなげているため、学校でも社会への活用方法について、教職員間で情報共有をさらに深めていくことで、よりよい授業実践につなげていく。
		10 ICTを活用した指導を行っていますか。	⑱ ICTを活用した教育活動を行っている教員が70%以上である。	○教職員が、ICTを活用した教育活動に取り組みやすいように校内の環境を整備する。 ○校内の研究授業において、ICTを活用した授業の取り組みを推進する。 ○校内において研修や意見交換会を開催し、有益な情報の共有を図る。	A	A	A	○アンケートにおいて、86%の生徒が授業等でICT機器を活用していると答えている。 ○教職員へのタブレットの配付により、授業においてICTを活用する実践が増加した。ICTの授業への活用方法について、教職員間で情報共有をさらに深めていくことで、よりよい授業実践につなげていく。
Ⅵ 教育のデジタル化に努めていますか。	11 ICTを活用した業務改善を行っていますか。	⑲ オンラインによるアンケートを5回以上実施する。	○学校行事や授業に関するオンラインのアンケートを積極的に実施する。 ○ICTでの連絡等を積極的に行い、ペーパーレス化の促進を進めるとともに、生徒・保護者理解を深める。	A	A	A	○学校行事や学年行事のアンケートなどで年5回以上のアンケートが実施されており、授業の振り返りなどでも積極的にICTが活用されている。	○ICTと黒板の併用で、かえって授業準備など業務が過重になっていないか危惧されるため、留意してほしい。